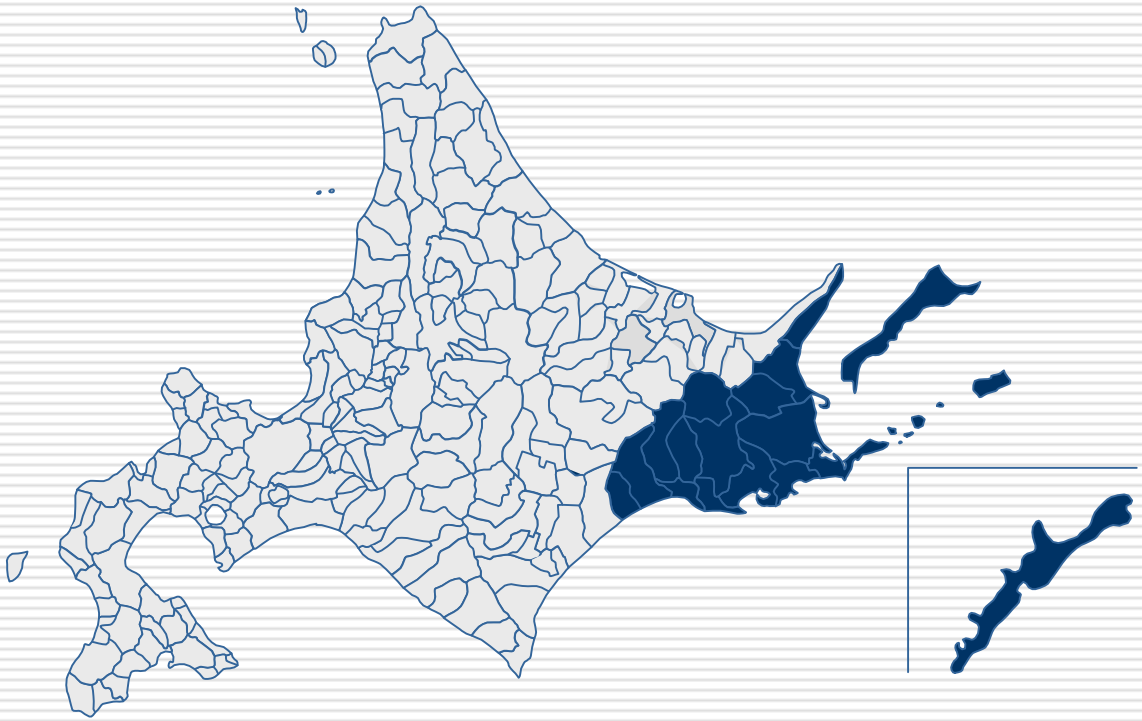
資料３

社会資本のサービスの状況



安全・安心で質の高い食産業の構築

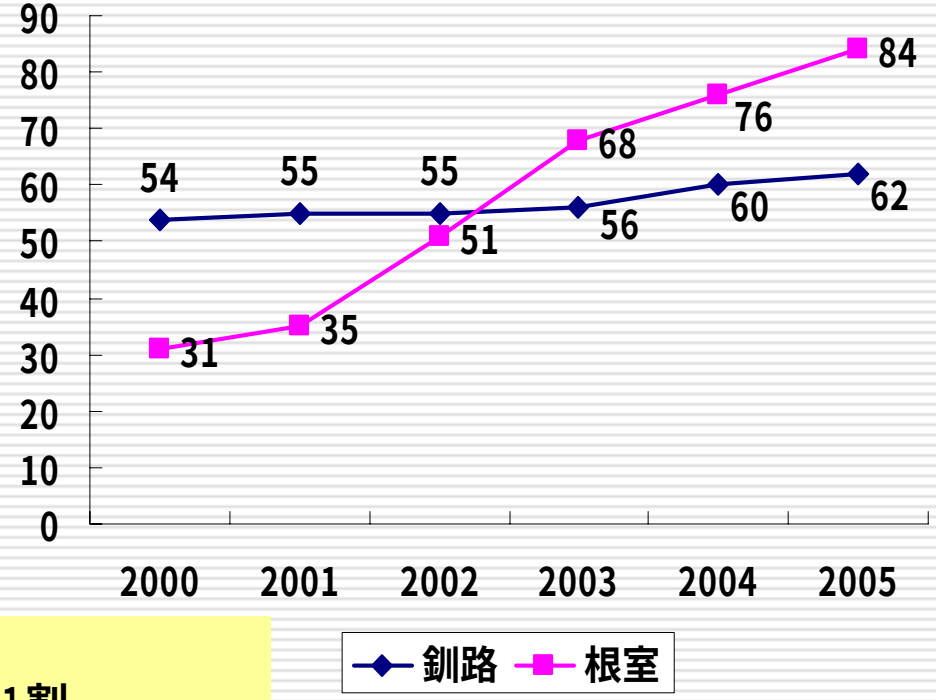
農業経営の効率化に向けた取り組み

農業生産法人数の推移

釧路･根室地域の農業生産法人数は2000年の85から大きく増加し、2005年には146を数え、増率では全国及び北海道の水準を大きく上回る。

なお、2003年のコントラクター数は、釧路支庁管内の7、根室支庁管内の26で計33となり、北海道の18.6%を占めているが、とりわけ根室は空知支庁管内の40に次いで多い。

【釧路･根室管内における農業生産法人数の推移】



■乳用牛
37経営体13,614頭　→全体のおよそ1割
1経営体あたり368頭　→管内平均は1戸あたり43頭
■肉用牛
30経営体31,435頭　→全体のおよそ6割
1経営体あたり1,048頭　→管内平均は1戸あたり40頭

資料）北海道

安全・安心で質の高い食産業の構築

漁業の効率化に向けた取り組み

漁港の屋根付き岸壁による就労環境の改善

防雨、防雪機能等を備えた屋根付き岸壁の整備は、就労環境の改善と同時に、水産物の品質、衛生管理の向上にも資する。現在は羅臼漁港と標津漁港において、その整備が進んでいる。

この2漁港がある羅臼町、標津町の漁業経営体数は455（平成15年、以下同じ）で、釧路･根室地域の13.1%を占めている。他地域と同様に従業者の高齢化や担い手の減少などが課題となっているが、効率化などが進んでおり、漁獲金額が173.4億円と同地域の23.3%となるなど、経営体当たりの漁獲金額は高い。

資料）釧路開発建設部

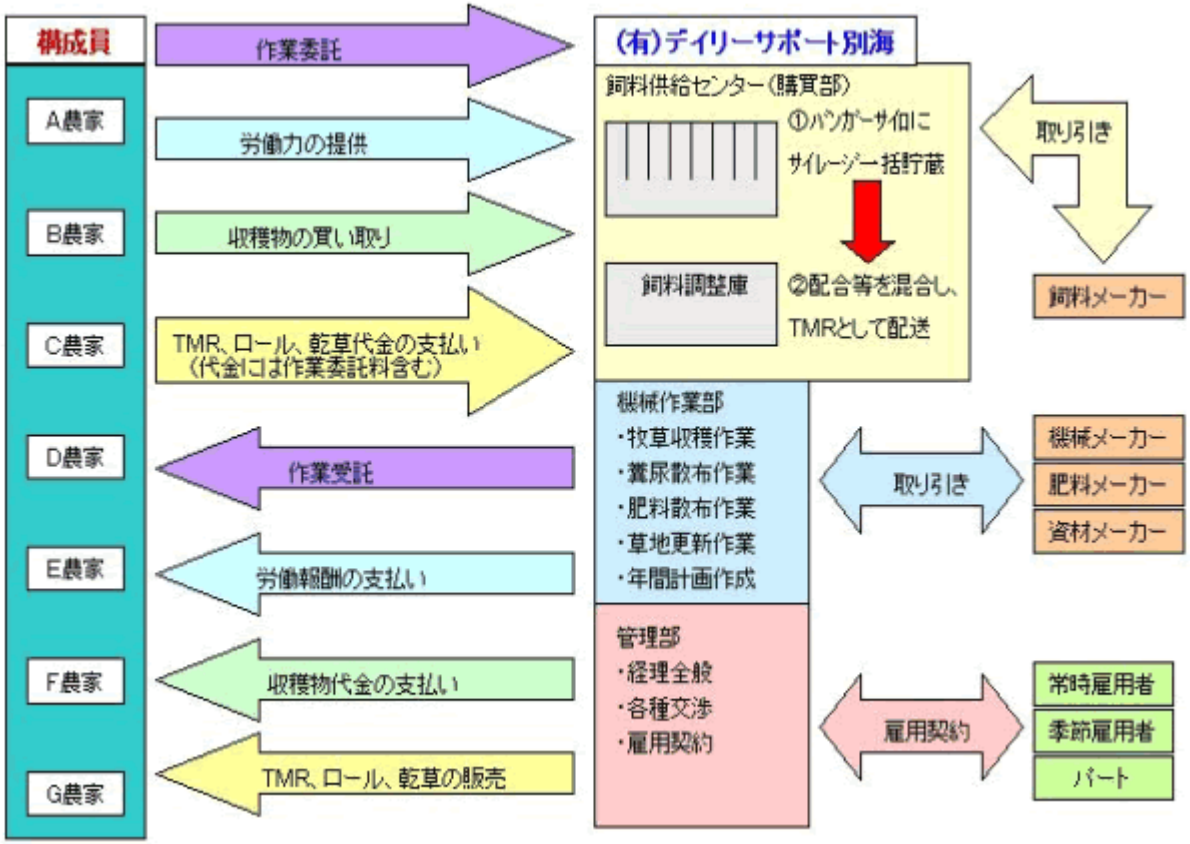
安全・安心で質の高い食産業の構築

デイリーサポート別海（事例）

有限会社デイリーサポート別海は、増頭や草地面積の拡大で労働力が限界に来ていること、草地面積の拡大に伴って適期収穫、良質粗飼料の確保が困難になっていることなどに対応するため、平成13年に設立された。

なお、設立当時の出荷乳量9,023トン、個体乳量608キロから、平成16年にはそれぞれ9,961トン、712キロと規模拡大、効率化が図られている。

【デイリーサポート型システムの概要】



資料）http://www.aurens.or.jp/TMR/betsukai/index.htmlほか

安全・安心で質の高い食産業の構築

鶴居村トミーランド牧場（事例）

有限会社トミーランドは、下雪裡地区の6戸の酪農家が協業し、平成8年から法人経営を開始した。近年、農畜産物の自由化が進むなかで、国際化に対応した足腰の強い酪農づくりと従来の個人経営での労働面を改善することを目的として設立された。

農場には、フリーストールやパーラーシステム、ふん尿処理のための固液分離施設、コンピューターによる乳牛飼養管理システム等を導入し、生産性の高い酪農経営と魅力ある牧場づくりを目指している。

■農場の沿革

- 事業開始　1996年1月1日
- 参加世帯　6戸
- 従業員数　15名（役員5名、社員5名、パート5名）
- 経営面積　269ha（草地227ha、耕地32ha、放牧地10ha）
- 家畜頭数　705頭（経産牛430頭）
- 出荷乳量　1日約9,600キロ

【トミーランド牧場のメリット】

法人経営のメリット

所得・社会保障の充実
- 年間所得一人5,000千円
  一家族8,550千円
- 労働保険、健康保険、厚生年金、福利厚生の充実
- 退職金制度の導入

国際化への対応
- 将来の乳価低下に対応
- 生産調整に柔軟に対応

農業従事者減少の阻止
- 地域内再雇用の場
- 地域への波及効果による生産意欲の醸成

労働時間短縮
- 他産業なみの労働時間（年1,700～2,000時間）
- ４週６休の導入
- 婦人労働の軽減

担い手育成・確保
- 新規就農希望者の研修及び受入れ
- 常時雇用の実績

環境に優しい農業
- 自然環境との調和
- 都市住民、消費者、観光客との交流

新政策の先取り・・・鶴居村農業発展に寄与

資料）http://www.aurens.or.jp/TMR/betsukai/index.htmlほか

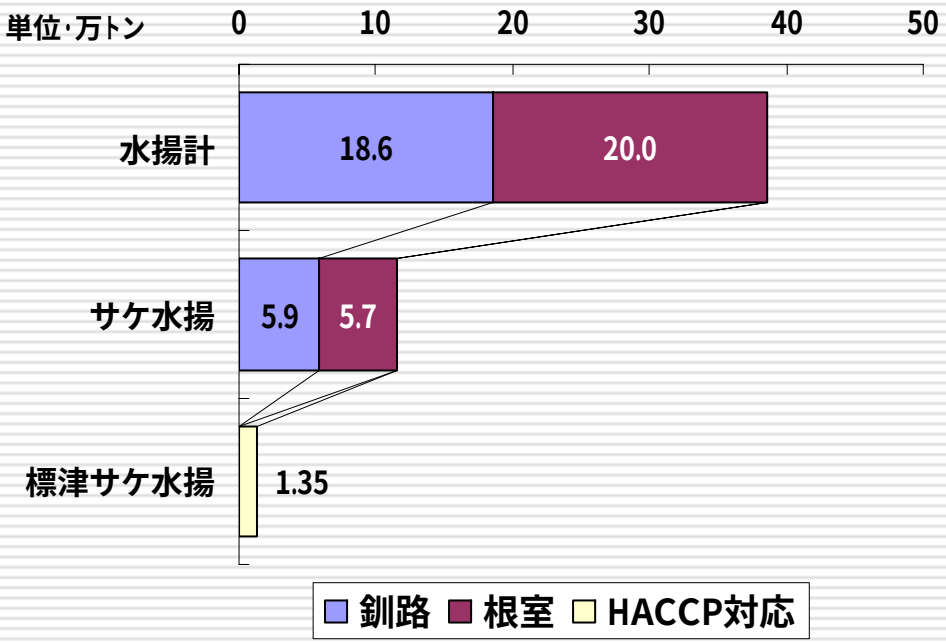
安全･安心な食に向けての取り組み

ＨＡＣＣＰ対応の水産物の割合

食の安全･安心に向けた取り組みとしては、ＨＡＣＣＰ対応などが挙げられるが、釧路･根室地域の水産物に関する対応は標津漁港で水揚げされるサケがある。

なお、この水揚量は年間(2004年) 13,500トンであるが、これは地域全体の水揚量(38.6万トン) の3.5%、地域のサケ水揚 (11.7万トン) の11.5%となっている。

【釧路･根室管内及びサケ、ＨＡＣＣＰ対応水揚高】



資料) 釧路開発建設部

安全・安心で質の高い食産業の構築

標津町地域HACCP推進委員会（事例）

標津町は、秋鮭の生産量日本一を誇るが、積極的な衛生対策等地域をあげた水産物の品質高度化に対する取り組みのなかで、標津町地域HACCP推進委員会が設立された。

■日本初の「水産食品安全管理システム」地域HACCPの実践

推進委員会の目的は、標津の豊かな海から獲れる秋サケやホタテ等の水産食料資源を「安心・安全で高品質」な状態で食卓届けるため、生産者から市場・加工場・運送業まで地域一体となって、従事者の健康管理、環境調査、衛生教育（人材育成）、生産・製造管理の記録等を実施し、地域HACCPを実践している。

またこれらの証として製造された製品には、認定査察後に「地域ハサップ認証製品」として認定し、「地域ハサップシール」を貼付する取り組みも実施している。

資料）http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/profile/foresight/2004autumn/02.htmlほか

安全・安心で質の高い食産業の構築

資源循環型農業に向けた取り組み

資源循環型施設

釧路･根室地域における、家畜ふん尿などの資源循環型施設数は7施設となっている。
これら施設の利用頭数をみると、合計で2,670頭となっており、地域全体の29.7万頭のおよそ0.9%となっている。

【釧路･根室地域における資源循環型施設の状況】

名称	運転開始	発酵槽容量 立米	ガス発生量 立米／日	利用戸数 戸	利用頭数 頭	耕地面積 ヘクタール
仁成ファーム	2001		600	1	270	
開新牧場	2004	540	1,016	1	650	210
清和牧場	2004	470		1	430	263
藤田牧場	2003		480	1	110	
別海町酪農研修牧場	1999		8	1	40	
別海資源循環試験施設	2001	1,500	1,500	9	1,000	
ＪＡ別海水沼牧場	2001	200	330	1	170	

資料）釧路開発建設部

安全・安心で質の高い食産業の構築

ＪＡはまなか　緑の回廊プロジェクト（事例）

　このプロジェクトは、ＪＡはまなかによって、浜中町の豊かな自然を次世代につないでいくために、酪農家を中心としたまちぐるみでの取り組みで、平成14年には浜中町により「浜中町農村環境保全整備会議」も設立されている。
　この会議では、土砂流入対策や環境保全・景観整備、経済と環境の両立などについて、具体的な取り組みが行われている。

【平成14年　桜並木の整備】

■活動状況
・国営かんがい排水事業による排水路整備、河畔林整備
・緑の回廊整備に伴う林帯整備、桜並木整備
・牧草畑、パドック等の環境、景観に配慮した酪農基盤整備
・酪農家72戸から、町内牧草地の1.6%を占める192haの牧草地提供を受けている

資料）釧路開発建設部調べ

安全・安心で質の高い食産業の構築

食産業の振興（マリンビジョン）

「知床」羅臼地域、根室地域（落石地区）

マリンビジョンでは、1．水産物の安定供給基盤の確保、2．環境保全と循環型社会の構築、3．安全･安心な水産物の安定生産体制の確保、4．漁村･地域の総合的な振興を目指すべき姿として掲げており、地域の総合力向上やブランド化が期待されている。

羅臼漁港：○屋根付岸壁や低温清浄海水導入施設など
　　○都市漁村交流の体験学習拠点や観光船発着施設など
落石漁港：○屋根付岸壁や清浄海水導入施設など
　　○増養殖などの蓄養施設や海水交換施設、自然調和型施設など
　　○都市漁村交流のための漁港内公園や直販施設、海のフットパス

【羅臼漁港屋根付岸壁】

【羅臼漁港低温清浄
海水取水管敷設状況】

【屋根付岸壁上での低温清浄
海水の利用想像図（サケ漁）】

資料）釧路開発建設部調べ

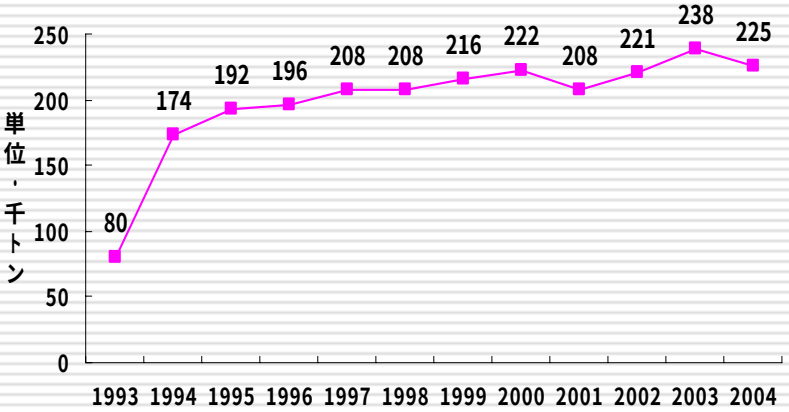
安全・安心で質の高い食産業の構築

物流の効率化に向けた取り組み

生乳の物流に関する取り組み（ほくれん丸）

釧路･根室地域では、年間約133万トンと日本一の生乳生産量（全国の約1割）を誇っているが、「ほくれん丸」の就航により、道外向け出荷が活発化しており、1997年以降は20万トン台で推移している。

【ほくれん丸及び第2ほくれん丸生乳移出実績推移】



資料）釧路開発建設部調べ

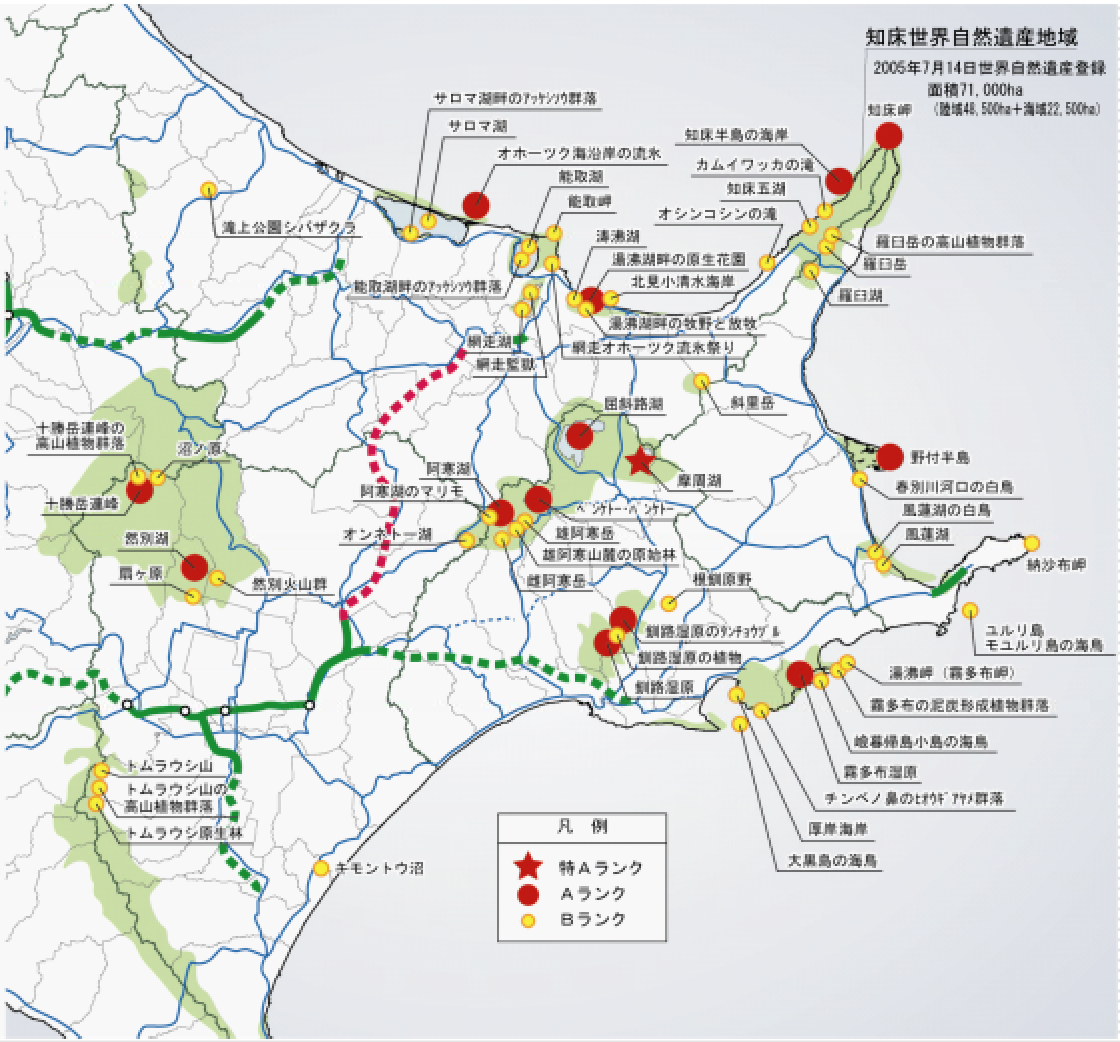
自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

観光資源の分布及び利活用状況

観光資源の分布

大手旅行代理店のパンフレットなどからみた主要観光資源は31カ所で、1資源あたりの入込客数はおよそ30.1万人（平成16年）となる。

入込客数の多い道央を除いて比較すると、最も多いのが道南の83.1万人で、近隣のオホーツクが40.8万人、十勝でも41.0万人となっており、資源数との対比でみると少ない。



自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

体験型観光

地域の体験型観光等の動向

釧路･根室地域には、ラフティングやホーストレッキングといった他地域でも見られるもののほか、より地域に密着した産業体験（牧畜、酪農、畑作、水産業、林業）や自然再生事業（植林、育林、外来植物除去）、文学体験（石川啄木など）、歴史発掘（縄文、擦紋、アイヌ文化）、食文化史（世界的固有種シシャモ、釧路ラーメン、丹頂ソバ）などのツアーを提供するＮＰＯもあり、数年前の年間約2.5千人から、現在では4千人程度の規模にまで達している。

その他では、期間限定あるいは単発的な営業を行っているところが多く、事業者やイベント毎の年間利用者数をみると、数十人から数百人程度となっているところが多い。

【釧路魚河岸ツアー】

【酪農体験ツアー】

資料）各種新聞記事等により作成

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

新たな観光

体験型観光のほか、地域における新たな観光メニューについて、新聞記事などから整理すると、主要なものとしては、以下の12ツアーが挙げられる。

これらは単発的、イベント的な色彩が強く、例えば厚岸古番屋冒険ツアーはピーク時でおよそ1,500人、アザラシウオッチングツアーも例年100人程度の集客があるが、その他について数十人といった規模が多く、マスツーリズムにはそぐわない面もあるが、多様化するニーズへの対応や他との差別化といった視点からすると、になうべき役割は大きい。今後はこれらツアー数の増加のほか、ＰＲなどによる集客力の確保なども重要となる。

【地域における新たな観光メニュー】

- 厚岸古番屋冒険ツアー、別寒辺牛湿原カヌーツーリング、アザラシウオッチングツアー、アサリ掘り体験ツアー（以上厚岸町）
- 魚河岸ツアー、石炭ツアー、パルプ港湾ツアー（以上釧路市）
- タンチョウ写真撮影ツアー（阿寒町）
- あったかふるさと再発見ツアー青い海コース（釧路町）
- しばれ体験ツアー（鶴居村）
- バードウォッチング（根室市）
- スギ花粉リトリート（避難）ツアー（上士幌町）

【アザラシウオッチングツアー】

資料）各種新聞記事等により作成

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

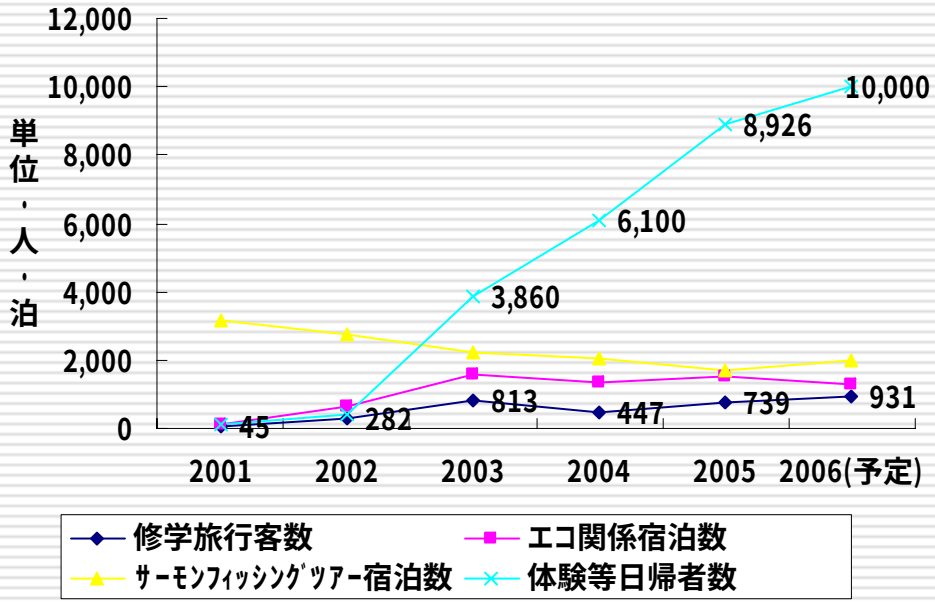
標津町エコ･ツーリズム交流推進協議会　(事例)

標津町エコ･ツーリズム交流推進協議会では、豊かな自然環境や農業･漁業などを活用し、①地域HACCPでの水産現場の見学、加工体験、②河川でのサーモンフィッシング体験、③山菜ツアーなど地域のあるがままの自然、産業活動を体験してもらうため、地域一体となって都市住民との交流を行っている。

また、「町民ガイド」制度を作り、漁業、加工、フィッシング、山菜採り等の体験学習の場において、町民をガイドとして育成し、現地での対応を行っている。

これらの活動により、「体験交流の町」として中高生の修学旅行など、観光客が年々増加しており、2006年度は修学旅行客931人、日帰り体験1万人の受け入れを予定している。

【エコツーリズム交流事業の活動実績推移】



資料) 標津町資料により作成

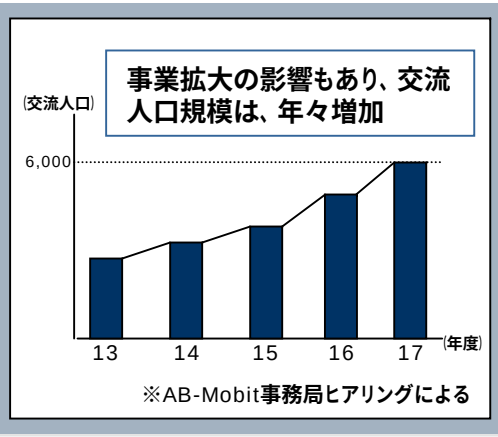
自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

ＡＢ－Ｍｏｂｉｔ　根室フットパス　(事例)

酪農家集団「ＡＢ－Ｍｏｂｉｔ」は、農村と牧場の持つ素晴らしい景観と安らぎの空間を都市住民との共有財産として楽しみ育み、また消費者の牧場体験や牧場散策、牛とのふれあい等により酪農業への理解を深めてもらい、さらにはこれらの地域と都市住民との交流を通して地域の営農継続意欲の高揚や地域の活性化につながる活動を行うことを目的に5戸の酪農家が参加し、設立された。

【酪農体験】

・平成13年　「ピュアビレッジ構想」を策定、西厚床と富岡牧場にキャンプ場を計画
・平成14年　ミニワークショップによりキャンプ場を富岡牧場に設置することを決定
・平成15年　厚床駅～富岡牧場10.5キロのコース整備、農業、農村交流館完成
・平成16年　第2回根室フットパスワークショップ開催、キャンプ場基本施設に着手。調査・整備ウオーク（参加19名）、標津線廃線跡ウオーキングツアー（同41名）等実施
・平成17年　第3回根室フットパスワークショップ開催のほか、「築拓キャンプ場」とフットパス海岸コース（20キロ）、ＡＢ－Ｍｏｂｉｔ食多楽クラブ（農産物加工体験、そばの栽培やそば作り等）を立ち上げた



資料http://www8.ocn.ne.jp/~abmobit/nemurofootpaths/nemurofootpath1.htmほか

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

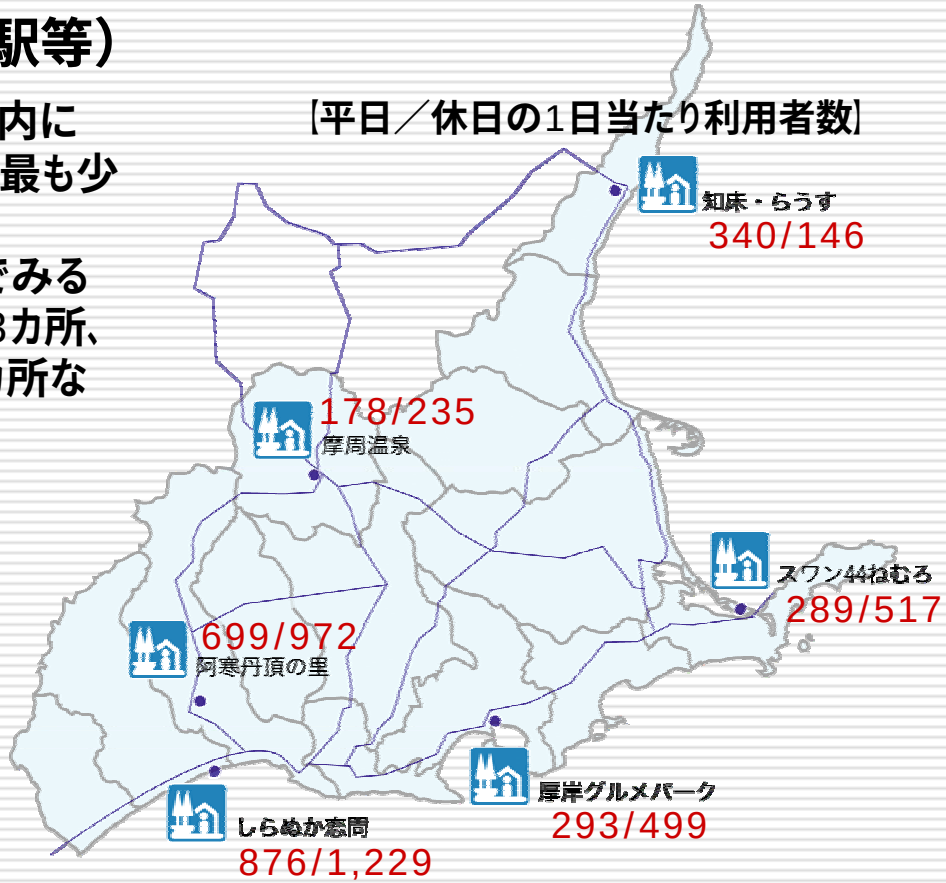
観光情報の提供状況

観光情報の提供場所等（道の駅等）

北海道に92カ所ある道の駅だが、管内には6カ所となっており、道内の圏域では最も少ない（最も多いのは道央の35カ所）。

また、面積比（100平方キロ当たり）でみると4.1カ所に止まっており、道央の15.3カ所、道南の15.2カ所、オホーツクの14.0カ所などに比べ見劣りする。

また、施設内にある情報端末の利用状況をみると、休日の厚岸では施設利用者の3割弱が利用しているが、その他では1割にも満たない。なお、その内訳は、天気（19.0%）や道路画像（18.1%）、道路情報（16.7%）が上位で、「みどころ」は14.6%の利用となっている。



資料）釧路開発建設部調べ

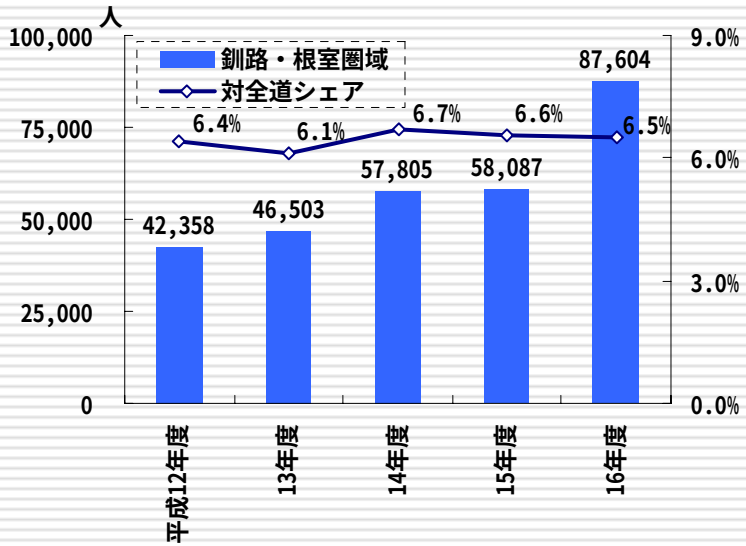
自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

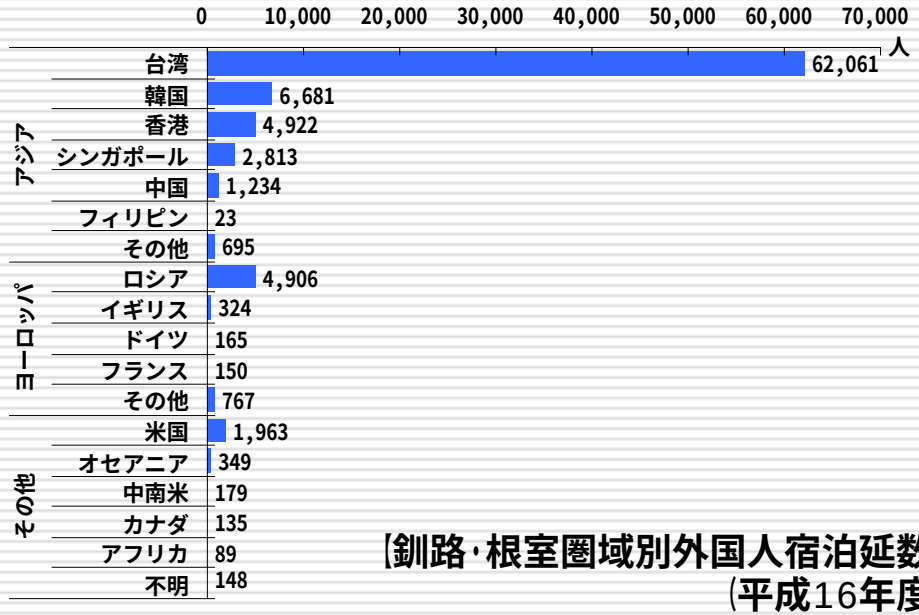
外国人入込客数の推移

釧路・根室地域の外国人宿泊延数は年々増加傾向にあり、国別にみると、台湾の約62千人をはじめとするアジアからの来訪者が最も多いが、市町村別でみると最も多いのは阿寒湖温泉を有する阿寒町の約58千人で、地域全体の69.8%を占める。

また、その動線をみると、新千歳空港を起点として、網走地域を経由して阿寒等で宿泊するルートが直接釧路方面に入り込むルートより多いといわれている。

【外国人宿泊延数（対全道シェア】





【釧路・根室圏域別外国人宿泊延数】
（平成16年度）

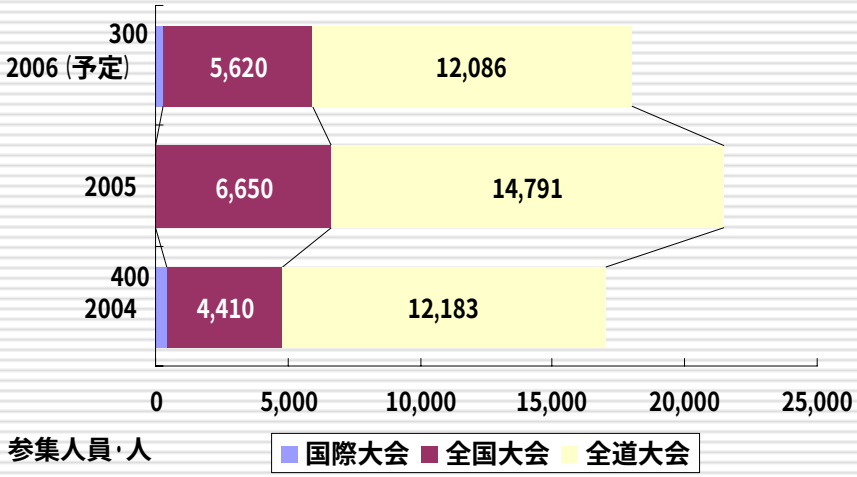
資料）北海道観光入込客数調査報告書（北海道）

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

国際会議、コンベンション等の開催状況

釧路・根室地域における最近時の主要な国際大会及び全国大会などの開催状況をみると、全国大会は千人規模のものが例年開催されているが、国際大会については規模も小さく断続的な状況にある。コンベンションは、交通アクセスや宿泊機能など地域の「総合力」が計られるため、今後の活発化が期待される。

【釧路市における全道･全国･国際大会内訳】



【主な全国大会】（原則として1,000人以上）

2005年　第20回釧路湿原全国車いすマラソン大会（1,120人）
　　第３回日本神経疾患医療福祉従事者学会（約1,500人）
　　第26回全国中学校ｽｹｰﾄ･ｱｲｽﾎｯｹｰ大会約1,600人）
2004年　日本生態学会第51回大会（約1,600人）
　　日本学生氷上競技選手権大会（約1,300人）
2003年　全日本中学校バレーボール選手権大会（約2,000人）
　　第９回地域福祉実践研究セミナー（約1,500人）
　　民事介入暴力対策協議会釧路大会（約1,500人）
2001年　全国都市監査委員会事務研修会（約1,400人）

【主な国際会議・大会】

2006年　日中韓観光担当大臣会議（予定）
2005年　ツールド北海道（第1及び第2ステージ）
2004年　世界こどもサミット釧路大会（約200人）
　　日本スポーツ教育学会（約200人）
2002年　ツールド北海道国際大会（約300人）
　　世界ジュニアスピードスケート
　　選手権大会（約500人）
1993年　ラムサール条約第５回締約国会議(約1,200人)

資料）釧路支庁及び釧路市資料等により作成

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

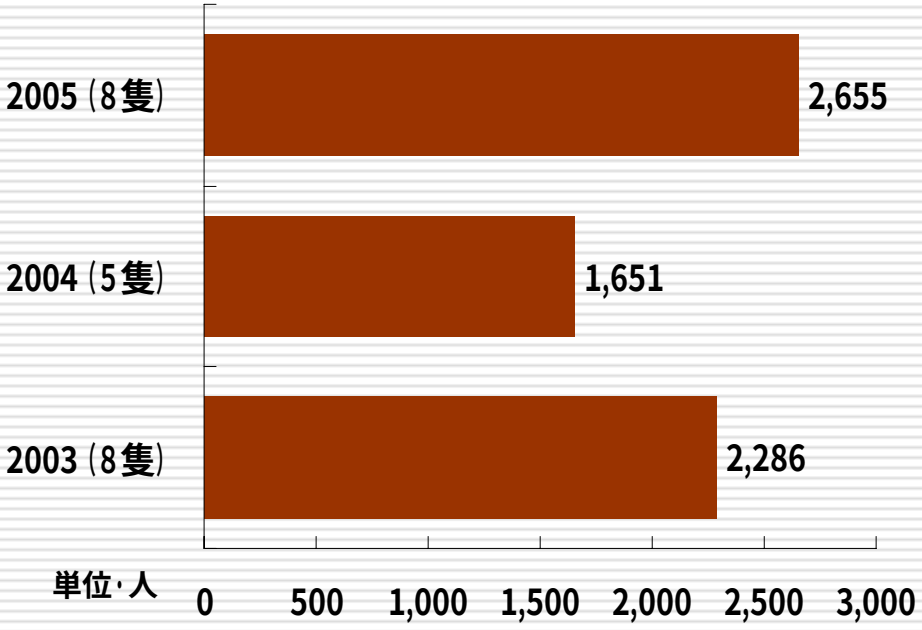
旅客船の状況と観光

釧路港寄港客船の状況

釧路港に寄港した客船は、2005年で8隻、乗客数が2,655人となっている。

このうち航路に海外を含むものは4隻（446人）となっており、2003年、2004年の2隻から増加しており、地域の観光に寄与している。

【釧路港における旅客船乗降客数の推移】



資料）釧路開発建設部